

☆☆☆小野わかば幼稚園☆☆☆

まのまちわかばたんけんたいの素敵な冒険

報告：郡山女子大学短期大学部幼児教育学科 柴田卓

★第1回 5月23日 「たんけんビンゴin緑とのふれあいの森公園」

第1回は、緑とのふれあいの森公園に行きました。昨年参加した年長組さんは、なんだか自信に満ちてベテランの顔つきです。はじめに「探検隊の心得」を確認。「自分のことは自分ですべし」「自分のからだは、自分で守るべし！」です。次に「たんけんビンゴ」です。今回は『わらしべ長者』の絵本から、素敵な宝物を1つ探してくるというミッションが加わりました。今年もまた「うるし」を見つけるのに苦戦する子が多い中、数人の子どもたちがU字溝に集まっています。のぞいてみると、そこにはたくさんのオタマジャクシがいました。捕まえたいけど怖い。恐る恐る手を出しています。一人の男の子が捕まえると、皆で次々にオタマジャクシを捕まえます。逃がすべきか、それとも園に持ち帰って育てるのか。話し合いの結果、数匹だけ持ち帰り育てることになりました。好奇心、命の大切さ、責任など大人にとってさえ難しい難題に直面することになりました。



★第2回 6月20日 「トレッキング in東堂山～緑とのふれあいの森公園」

第2回は、小野町の名所「東堂山」に行きました。今回から浮金つつじ児童園の子どもたちが合流し、何がはじまるのか不安気な様子です。なんと「わしを見つけられるかな？」という、石になったキビタンからの挑戦状が届きました。グループにヒントが書かれた地図が渡され、羅漢像や満福寺、大きな岩や看板などを見つけながらゴールを目指すという内容です。グループで励まし合ったり、時に一緒に笑いながら全員無事にキビタンの石像を発見することができました。ミッションを達成し、子どもたちがそれぞれに遊び始めた頃、バスの方から小さな水槽を運んでくる女の子たち。あの時のオタマジャクシ？ドキドキしながら見せようと、数匹の手と足の生えたオタマジャクシがいました。皆で相談して家族のもとへ返してあげることになったそうです。命の大切さに真剣に向き合い、話し合い、決断をしたことに胸が熱くなりました。

★第3回 7月16日 「沢登り&生き物探索in夏井川河川敷」

第3回は、千本桜でおなじみの夏井川河川敷に行きました。河原での「生き物探索組」と「沢登り組」に分かれての活動です。虫網と虫かごを持った生き物探索組の子どもたちは、どんなところに生き物が隠れて生活しているのか「みつけ」というクイズで確認しました。昨年は恐る恐る生き物に触っていましたが、今年は虫網を持っているからか、積極的な子どもたち。数種類のバッタやカタツムリなどたくさんの生き物に触れ合うことができました。沢登り組は、ライフジャケットを着て、100mほど上流の目的地に向かいます。靴に石が入ったりするのが気になる子も、先へ進むにつれて真剣な眼差しに変わり、深いところでは助け合う場面も見られました。目的地の小さな滝に到着すると、水浴びやダイヤモンド探などがはじまりました。昨年は沢を登ることが目的でしたが、今年はさまざまな遊びに発展していく姿が多く、子どもたちの「やってみよう！」という声と「素敵な笑顔」があふれていました。

